第５号
DEC. 2006
最終号

あしおと

THE SOUND OF FOOT STEPS

特集 東京同窓会

Contents

THE SOUND OF FOOT STEPS
2006.12月

「あしおと」は、甲府一高43年卒の同期会誌です

ご挨拶　甲府43会会長　沢登孝明

巻頭詩　観照　根津 正　4

特集　東京同窓会　7
(2006年7月8日　皇居二重橋前　東京會舘にて)

写真集　＜敬称略＞　監修　小木曾博　8

写真提供/平成18年度甲府中学・甲府一高東京同窓会
撮影: 小木曾博・両角益資・永井博・片山博文

拝啓「あしおと」編集室御中　古屋史夫・両角益資・土屋正美・大場節子・斉藤昇司　26
43年卒が当番でした
窪田正明　三井俊秀　土屋正美　山本始　27
水垣秀子　斉藤昇司　古屋史夫　小林慎一
幹事長　池田秀雄
先輩・後輩から　41年卒　山本秀彦　52年卒　中山初美

なつかし写真　壮年期の石橋湛山　40

甲府・小諸間100キロ行

甲府・小諸間100キロ行　小木曾博　41

強行遠足創設の事　吉岡正和　44

日新鐘　編集便り　類まれな過酷な山岳レース　45

オススメの一冊、思い出の一曲　46

「ビトウィン」　両角益資　「黄昏のビギン」　加藤房明
「責任　ラバウルの将軍今村均」　永井博　東京人生、選んだ一曲　大野陽造

サヨナラ「あしおと」

ご無沙汰をしておりました　加藤房明　54

いとしいぜ　石倉光康　55

拝啓　編集長様　根津 正　56

編集人から　大野陽造・中野良男・根津正　57

ご挨拶　甲府43会事務局長　谷戸昭夫

表紙　東京同窓会主催の jam session に臨む　森山威男　撮影 片山博文

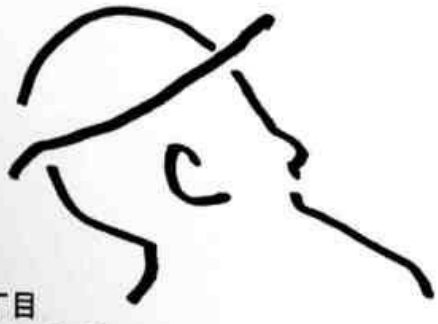
広告　さわ淵

コノサカヅキヲ受ケテクレ
ドウゾナミナミツガシテオクレ
ハナニアラシノタトエモアルゾ
「サヨナラ」ダケガ人生ダ

干武陵の「歓酒」
井伏鱒二 訳
より

唐詩選の五言絶句の中に、
「人生足別離」の一句があり、私の或る先輩はこれを、
「サヨナラ」ダケガ人生ダ
と訳した。
まことに相逢った時のよろこびはつかの間に消えるものだけれども、別離の傷心は深く、私たちは常に惜別の情の中に生きているといっても過言ではあるまい。

太宰 治



相生2丁目
皆様の さわ淵
PHONE 055-232-7926

ヤリ投げびとは生きている
心の中に生きている

特集　東京同窓会

甦れ！　鶴城魂

応援歌　鶴城に

鶴城に桜花咲き
人は皆歓楽に酔ふ
われ一人落花を浴びて
前の恥花園に泣きぬ

秋来る健児の胸に
強き意気宇宙も空し
桜花の旗ひとたび振れば
醜の群れ微塵に飛ばむ

ヤッツケロ　ヤッツケロ
ヤッツケ　ヤッツケ
ヤッツケロ

さまざまな事　思い出す桜かな　芭蕉

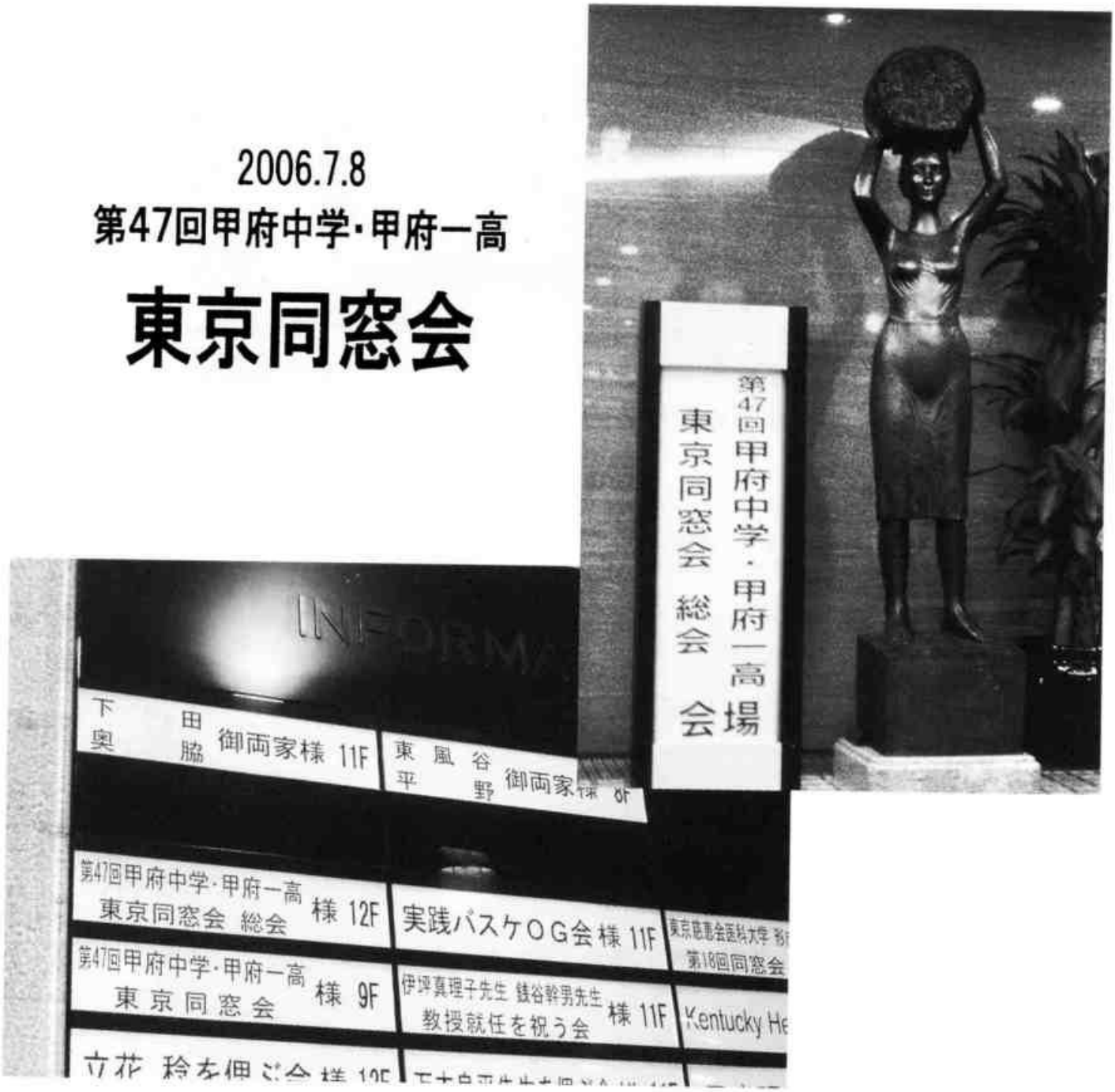
平成一八年七月八日(土)
東京會舘入口風景

10:50

2006.7.8

第47回甲府中学・甲府一高

東京同窓会



平成一八年度東京同窓会はここから始まる。
ここが起点だ。
当日の朝、幹事長池田秀雄の心中はいつに
なくおだやかだった。

11:00

事務局長油井純雄は、懇親会総合司会の岡
本みどりと細部の確認。

幹事会活動にこれまでくまなく眼を配り続
けた竹中みゆきは、背後で彼女を支えた柳
本教仁と最終チェック。

幹事長池田秀雄の活動開始指令が、事務局長油井純雄に飛んだ！

11:30

さあこれからは、幹事それぞれがまかされた自分の持ち場でベストをつくす。

当日入場者配布予定の袋詰作業が始まる。目標六〇〇.

作業は早出幹事の数が多かったせいか、あるいは手際が良かったか、予定時刻より早く終る。

12:00

腹ごしらえしておかなくちゃ、食いっぱくれると夜まで何も食べられない。

嵐の前の静けさか、なぎのような時間のながれにしばしくつろぐ往年の女性徒たち。

14:00

窓の下には神田川ならぬ皇居前広場。
東京のまさに中心だ。

ブラバンの女性徒たちがやってきた！
若い、初々しい、かわゆい。

お待ちどうさま。
よろしくね。

12階ロイヤルルームでは、総会の議事が淡々とすすんでいく。

池田秀雄　　歩んできた人生が、
大役を全うさせた。
名実ともにわれらがリーダー。

竹中みゆき　　この人を欠いたら東京同窓会は
成り立たなかった。さわやかさ、歯切れのよさ
にみんなついていった。

9階ローズルームではリハーサル。音合わせに一瞬プロの不安がよぎる。

しかし桜色の若くて可愛い女生徒パワーに次第に森山は和んでいく。　　いけそうだ！

受付はスタンバイ。
いつでもどうぞ～

15:00

お客様第一号がいらっしゃいました。
名札をお付けください。

15:30

ぞくぞくと同窓生がやってくる、どんどん
やってくる。そっち頼むよ！　了解了解。

書籍販売コーナー。
即席とはいえそれなりに立ち上がった。

16:15

《テーブルに置かれた書籍》
学校からの推薦図書数種・名簿類
昭和二八年卒　渡辺圭子さんの詩集
「七月六日の赤い空」
昭和一〇年卒　丸山太一著
「木喰賛歌」

わが雑誌「あしおと」も二号、三号、四号
が勢揃い。創刊号は絶版で残念。

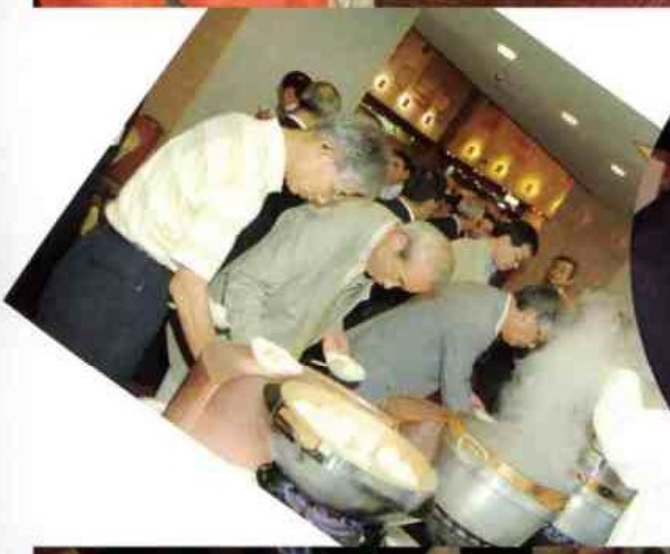
懇親会スタート！

鶴城魂が横溢し、いずれ跳梁跋扈するであろう
「ハレ」空間の扉は開かれたのです。

17:00

お酒も入って場内はくつろいできた。
各テーブルは賑やかだ。

何気ない先輩の一言が、後輩にとって「現実」を動かす大いなる
力になることもある。〈東京同窓会　垂直交流現場より〉



MORIYAMA TAKEO

日本のジャズドラマーの最高峰
森山威男の登場だ

17:50

田中信正（P）との魂のせめぎ合い、ぶっつけ合いは
居合わせた同窓生の心を揺さぶった。

COLLABORATION

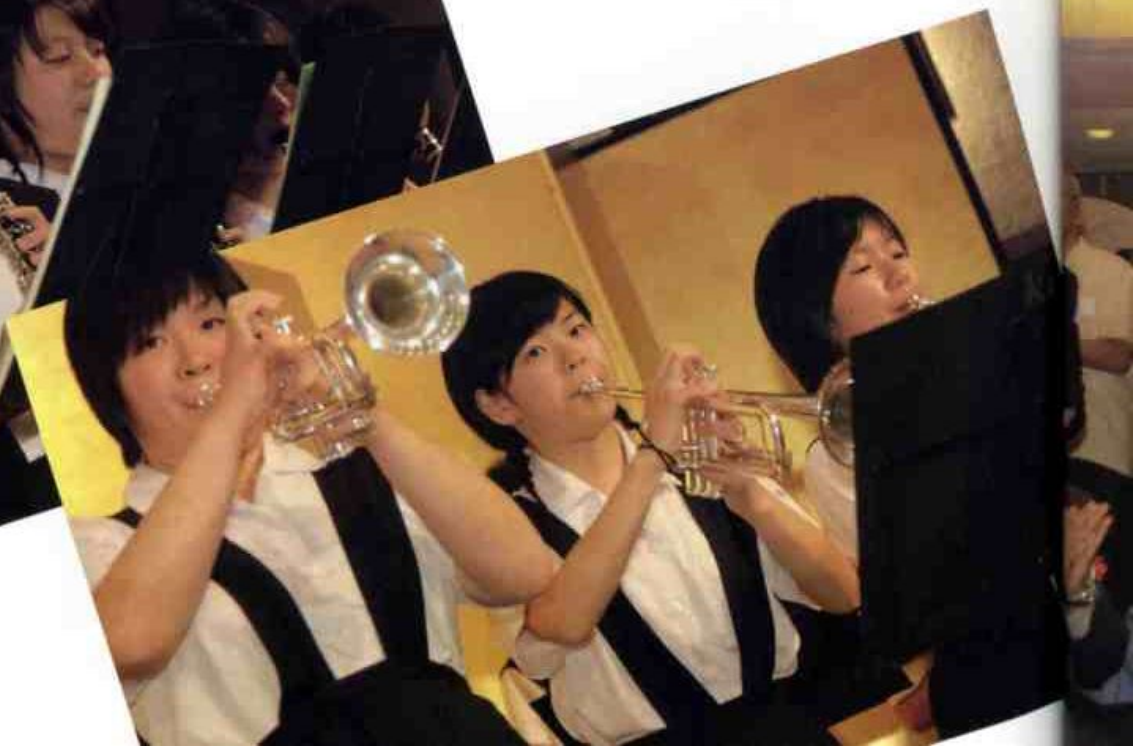
森山威男とブラバンとのコラボレーション

♪Sing Sing のリズムに乗って

18:15

後輩女性生徒の膝小僧が何とも初々しい！
演奏の方はどうしてどうしてしっかりしていた。
みんな乗りに乗った。

平成18年
第47回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会



イベント責任者　諸角英良、ほっと胸をなでおろす。

森山さん、女性徒諸君ありがとう。「終ったね　やったね　良かった　みんな喜んでた」　43会一同

あの人もこの人も、先輩も後輩も、
上気して揺さぶられて、微笑んでいる。

一高万歳！
森山威男万歳！
鶴城魂万歳！

鶴城魂は甦った！

甦った鶴城魂は・・・

同窓生それぞれの心に「灯」をともしてまわった。ともされた「灯」はつながって帯になって・・・

たましいのたとえば秋のほたる哉　　蛇笏

甲府・小諸間
100キロ行

action plan

from KOFU to KOMORO on foot

Hiroshi Ogiso

到着時刻は、甲府から市場まで時速5.5キロ、市場から小諸まで時速4.5キロ歩行を想定して計算。
前日泊: ホテル日商　シングル￥4,500　当日泊: 旅籠つるやホテル　和室3名予約済一人5,390円
参加予定者　猪股賢太郎・古屋正博・小木曽博

タイムテーブル

甲府	0km	0:00
韮崎	13km	2:20
若神子	23km	4:10
箕輪新町	28km	5:00
長沢	33km	6:00
三軒家	37km	6:40
清里	42km	7:40
野辺山	49km	9:00
市場	55km	10:00
海ノ口	60km	11:00
松原湖	66km	12:20
小海	69km	13:00
八千穂	74km	14:00
羽黒下	78km	15:00
臼田	81km	15:40
中込	87km	17:00
岩村田	93km	18:30
三岡	97km	19:20
小諸	100km	20:00

【歩行見透し】

甲府一高を右に見ながら、現在名山手通りを進む。
湯村・千松橋・東町・西町・松島団地入口で、登美の坂になる。
二手に分かれるが滝坂上で合流するのでどちらでもよい。ななめ左の
太い道の方が間違いがない。ここまで約5キロ。
7キロで登美交差点。ななめ左に進む。
中央道を越えると竜地の信号。下今井を経て中央線をくぐる。
塩崎駅の南側をとおり韮崎西小・田畑・塩川橋。下今井から約3キロ。
塩川橋を渡るとすぐ二股。右側(線路側)に進む。
塩川橋から下宿を経て約2キロで本町信号を右折する。
韮崎駅を右手に見ながら、中央線をくぐり、本町から約2キロで
東中学校前の信号、そこを直進。国道141号を清里方面へ。
絵見堂・駒井・道の駅韮崎(右側にみる)・三井橋入口・桐の木橋を
直進して約3キロで中央道をくぐる。そこは須玉である。
小手指から1キロで141号は二股に分かれるが、右の方がお店が
多そうである。
ひたすら北上して弘法坂をめざす。弘法坂朝6時が最初の目標である。

清里小学校・JA梨北の次の二股は、直進あるいは右側へ。この二股から1キロで清里信号である。ここまで42キロ、
朝7時半ごろが目標。多分、正博さんと合流。SLランド・五光牧場から500メートルで交差点になるが、右折して
野辺山駅方面に。市場を過ぎて、峠を下ると千曲川が右手に見えて、海ノ口である。
松原湖入口・小海大橋(直進)馬流・本間川・千代里・清水町である。
千曲川病院入口・高野町・三条大橋入口・城山・伊勢宮・野澤西・跡部・浅蓼大橋で千曲川を渡る。
石神・浅間中西の次の信号長土呂東で左折する。
長土呂東は、直進も左折も141号である。左折すると右に双信電機、300メートルで長土呂の信号がある。
和田、この後県道141号との交差点がある。私たちの道は国道141号である。間違えてはいけない。
二股になっているが、斜め右へ行くこと。この二股から150メートルで谷地原入口の信号である。
間違えると100メートルで小海線を渡ることになる。三岡駅を左に見て信濃鉄道を越えると300メートルで四谷の信号。
これを左折。五叉路であるが、左から二つ目。国道141号の表示かあるいは国道18号の表示かもしれない。
東小諸駅方面・小諸駅方面をめざす。四谷交差点から600メートルで東中学入口、東小諸駅を左に見て御幸町、
南町の信号を過ぎれば、小諸駅が左側に在る。

読者各位

♪村の渡しの船頭さんは
今年六十のお爺さん
歳はとっても お舟を漕ぐときは
元気いっぱい 櫓がしなる
それぎっちら、ぎっちら、ぎっちらこ

ふと浮かんだ童謡のメロディーにのせて

雑誌「あしおと」第5号 （最終号）を

お届けします。

これまで賜りましたご支援、ご指導・ご鞭撻、深く感謝します。

雑誌「あしおと」編集室
2006年12月25日

あ し お と
THE SOUND OF FOOT STEPS

2006年 12月25日 発行
編集人 大野陽造
中野良男
根津 正
発行人 沢登孝明
発行所 埼玉県富士見市針ケ谷1-17-12
印刷 株式会社峡南堂印刷所

第2号
MAY 2004
〈第2号以降 発行月は5月に変更〉

あしおと

THE SOUND OF FOOT STEPS

あしおと

THE SOUND OF FOOT STEPS

2004年 5月 1日 発行
限定200部 御代1,000円
編集人 大野陽造
中野良男
根津 正
発行人 田中真三
発行所 埼玉県富士見市針ケ谷1-17-12
印刷 株式会社峡南堂印刷所

第3号
DEC. 2004

あしおと

THE SOUND OF FOOT STEPS

あしおと

THE SOUND OF FOOT STEPS

2004年　12月25日　発行
限定200部
編集人　　大野陽造
　　中野良男
　　根津　正
発行人　　田中真三
発行所　　埼玉県富士見市針ケ谷1-17-12
印刷　　株式会社峡南堂印刷所

第4号
DEC 2000

あしおと

THE SOUND OF FOOT STEPS

あしおと
THE SOUND OF FOOT STEPS

2005年　12月25日　発行
限定200部
編集人　大野陽造
中野良男
根津　正
発行人　沢登孝明
発行所　埼玉県富士見市針ケ谷1-17-12
印刷　株式会社峡南堂印刷所